

取り組み事例紹介

事例1

エコ資金を利用した メガソーラー発電所の 開発支援



「名取ソーラーウェイ」の完成イメージ

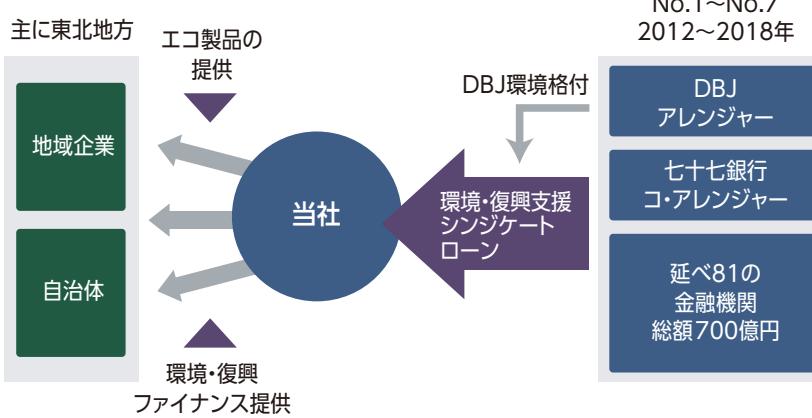
当社は、環境・復興支援シンジケートローンによる資金調達を実行しています。同シンジケートローンは、株式会社日本政策投資銀行(DBJ)と株式会社七十七銀行がアレンジャーとなり、全国の十数の金融機関が貸出しとして参加するもので、調達した資金は、環境に配慮した事業経営を志向する企業・公益法人等の取り組みや東日本大震災による被災地復興の支援を目的としたリースやファイナンス案件に使途を限定しています。東日本大震災が発生した翌年の2012年から毎年継続的に実行しており、今回で7年目となっています。環境への影響が少ない商品を優先的に購入する「グリーン調達」の考え方を、金融の切り口で実現させた本取り組みは、2013年にはグリーン購入大賞の最高賞である大賞・環境大臣賞を受賞しています。本資金の一部を原資として組成した案件の一つが、宮城県名取市の名取ソーラーウェイです。名取ソーラーウェイは、東日本大震災で甚大な被害があった宮城県農業高等学校跡地の有効活用を目的に、宮城県が太陽光発電事業者を公募し、選定された日本アシアグループ傘下のJAG国際エナジー株式会社および国際航業株式会社が開発を手掛けたものです。当社はアレンジャーとして、名取ソーラーウェイの開発期間中に発生す

る事業資金に対するコミットメントライン型シンジケートローンを組成しました。

2018年3月に竣工した本発電所は、出力約26.3MW、一般家庭約7,700世帯の年間電力消費量に相当する発電規模を有し、発電した電力を東北電力に売電しています。東日本大震災後の地域復興や活性化への貢献が期待されており、竣工後の事業資金の一部は、東京都が進めている官民連携再生可能エネルギーファンド事業におけるJAGインベストメントマネジメントが運営するファンドから投融資が実行されています。

当社は、事業を通じた社会課題の解決を目指しており、東日本大震災の復興支援の一助となるよう、環境・復興支援シンジケートローンによる資金調達を継続的に実施してまいりました。また地域課題に直接的にアプローチするべく、エネルギーを含む4領域を新事業に据え、新たな取り組みを進めています。引き続き、社会からの要請に応じた適切なソリューションの提供に向け、取り組みを進めてまいります。

【環境・復興支援シンジケートローン概略図】



事業法人第一部

主任

市岡 克之

※所属は2018年3月時点